

事業を通じた地域経済への貢献



2022年度の進捗

1.1 万人

年間雇用創出
現地従業員数(非正規雇用含む)
(タイ、インドネシア、フィリピン、
ベトナム)

38.4 万台

年間輸出台数

29.1 万台

自動車輸出台数(タイ)

9.3 万台

自動車輸出台数(インドネシア)

- アセアン地域での雇用創出：タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム連結4社で現地雇用を持続的に創出
- アセアン地域への主な人材育成・技術移転：職業訓練校や技術系大学に奨学金付与、実習車両提供、教育研修授業を実施(タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム)、新塗装工場を新設し量産稼働開始(タイ)
- アセアン地域への主な輸出：タイ、インドネシアから自動車の輸出を継続(輸出車両：[タイ]: トライトン、パジェロスポーツ、ミラージュ、アトラージュ [インドネシア]: エクスパンダー)
- タイとインドネシアにおいて、物流会社、国営郵便などと軽商用EVを活用した実証実験開始。また、タイでは太陽光発電設備を病院に設置するプロジェクト、インドネシアとフィリピンでは工場屋上に太陽光パネル設置するプロジェクトなど、環境負荷低減を推進

〈関連ページ〉

P15 三菱自動車のマテリアリティ

P21 マテリアリティ

基本的な考え方

三菱自動車は、アセアン地域でモータリゼーションが興る以前より事業を展開し、「地域の発展」が「当社の発展」という思いで地域に寄り添いながら各国とともに成長してきました。

長年にわたり事業活動を行っている地域の社会課題の解決に積極的に取り組み、共に成長を目指し、促すことは、地域の活性化、市場の育成、消費者ニーズの把握、当社ブランド力の強化などにつながり、「地域の発展」と「当社の発展」を同時に実現できると考えています。2023年3月に発表した新中期経営計画「Challenge 2025」では、アセアンを事業中核地域として経営資源を集中投入します。更に、これまで以上に研究開発費と設備投資を安定的に投じ、特に、電動化、IT分野、新事業への支出割合を増やすことで、会社のさらなる成長を目指しています。また、マテリアリティの一つである「事業を通じた地域経済への貢献」では、アセアン地域における事業の発展を通じ、雇用・人材育成・投資・技術移転・輸出による地域経済への貢献を果たすことを目標として取り組んでいます。(※1)。

加えて、アセアン地域固有の社会ニーズに応える形で、環境と社会貢献の分野でも当社独自の技術・サービスを生かして取り組んでいます。(※2)

※1 「マテリアリティの特定」の詳細は、P15をご参照ください。

※2 具体的な事例は、P76-78をご参照ください。

マネジメント体制

アセアン地域でのマテリアリティ「事業を通じた地域経済への貢献」への取り組みは、現地子会社が活動計画の策定および実行を担い、管理監督機能を果たす当社営業部門が責任部門として取り組みを推進しています。生産拠点を持つタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4カ国については、半年に一度、現地子会社に取り組みの進捗や実績を確認し、サステナビリティ委員会を通じて経営層に報告を行っています。

雇用

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による市場低迷からの経済再生、発展を目指すアセアン地域において、地域の雇用を継続して創出することは当社の使命と考えています。生産拠点のあるタイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム4カ国における2022年度従業員数は約1万1千人であり、2023年度も現地の事業計画に沿って現地雇用を持続的に創出します。



人材育成

産業の高度化を目指すアセアン地域において、三菱自動車での自動車製造や販売・サービスなどの就業経験を通じ、専門的な知見や技能を培うとともに、地域経済の発展を担う産業人材への成長支援を行っています。2022年度は、各国が新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面とオンライン併用で研修やOJT教育を実施しました。

- ・タイでは、営業・サービス研修を延べ約4万人の従業員とディーラースタッフに対して実施しました。
- ・インドネシアでは、現地社員にそれぞれの職務レベルに合わせた業務スキルを強化する研修を約250人の社員に対して実施しました。
- ・フィリピンでは、現地社員の業務スキルと生産性の向上を意図した教育・研修を約6,900人の社員が受講し、専門性を高めています。

2023年度も継続して、各国の状況に応じた研修やOJT教育を行う予定です。

投資

地域経済の成長を支える工場の設備投資を継続的に実施しています。

2022年度は、軽商用EV『ミニキャブ・ミーブ』をインドネシアで現地生産することや、その他モデルの輸出先の拡大を決定し、継続的に投資しています。また、当社の事業中核地域であるアセアン・オセアニアには大きな成長の余地があると見込んでいることから、新中期経営計画「Challenge 2025」では今後の大変革時代に対応するため、2026年以降に安定的かつ従来よりも高い水準の研究開発費と設備投資を行うこととしています。

技術移転

当社の成長ドライバーであるアセアンを中心に、各国での現地生産を通じて、ものづくりの高度化と競争力強化を継続的に支援しています。

2022年度は、新型ピックアップトラック『トライトン』や小型SUV、更に海外初の電気自動車生産となる『ミニキャブ・ミーブ』などの生産準備を通じて、日本で培ってきた電動車も含めたものづくり技術の海外移転を推進しました。

加えて、ものづくり競争力強化促進のため、新たにBuddy (運命共同体) 制度を導入し、海外工場と国内工場間でBuddy体制を組み、新型車立上げから量産運営に至るまで、さまざまな競争力強化対策の実施やノウハウの伝授を進めています。

また、地球環境にやさしい工場を目指し、太陽光発電の導入も推進しています。タイの新塗装工場での導入に加え、インドネシアやフィリピンの工場でも太陽光パネルの設置を進めており、海外生産拠点でも日本で培った太陽光発電の技術・ノウハウの移転を行っています。

更に、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナムの技術系大学や職業訓練校に、奨学金による支援や実習車両の提供、教育研修の実施、教師へのオンラインセミナーの開催、自動車産業に携わる社員の子どもへの教育など技術移転の視点で現地人材の職業訓練支援や技術教育活動を実施しました。

2023年度も、地域製造業の高度化の支援を継続します。



輸出

輸出を通じて外貨を獲得することで、地域経済の持続的な成長を支えています。三菱自動車の海外最大の生産拠点である三菱・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド(MMTh)は、戦略的な立地を生かし、ピックアップトラック、SUVなど当社の主力車種をアセアン地域のみならずグローバルに輸出しています。2022年度は、新型コロナウイルス感染症の収束対策としての行動制限の緩和や国境封鎖解除にともない、2021年度に比べて輸出の好転が見られました。具体的にはタイからの輸出台数は29.1万台、インドネシアからは9.3万台を出荷し、それぞれ年間目標を達成しました。2023年度もアセアン域内での生産の相互補完体制を強化し、アセアン域内外への輸出を促進していきます。



新型『エクスパンダークロス』

環境・社会貢献

アセアン地域においても、環境規制への対応が従来にも増して大きな課題となっており、カーボンニュートラル社会の実現が求められていることから、当社の強みである電動車の技術・知見を生かし、地域社会の課題解決を支援しています。

2022年度は、タイとインドネシアにおいて、国営郵便や物流企業などと軽商用EV『ミニキャブ・ミーブ』を使った実証実験を通じてEV普及に向けた環境整備の検証を行いました。また、CO₂排出量を削減する目的で、太陽光発電設備を病院に設置する環境プロジェクト「Solar for Lives」を政府と開始したタイに続き、インドネシアやフィリピンでは工場屋上に太陽光パネルを設置し発電するプロジェクトを進めています。2023年度もアセアン地域における電動車の普及推進や環境負荷低減につながる活動を行います。



実証実験で使用している充電中の『ミニキャブ・ミーブ』



環境プロジェクト「Solar for Lives」太陽光発電設備を設置した病院